

2021年1～2月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

満帆にして満載の宝船  
艶を増し日の臘梅の香を溶かす  
草に木に命の艶を呼ぶ二月  
春立つやテラスに残る昨夜の豆  
籠植ゑのすずなすずしろ茎立てる

八王子 石井 蓉子

一人居に二つの荷物聖夜かな  
工賃に加へボーナスでふ快挙  
水仙香に励まされている通所かな  
人の無き公園冬日独り占め  
午前四時師走の月に目覚めたる

町田 小森 まさひこ

路地さらに狭めてポインセチアかな  
勝独楽や人情深川ご利益通り  
猿廻し芸人だけが乗ってをり  
御神渡り縦横にして蝦夷の湖  
境目はきつとどこかに流氷原

松尾芭蕉

於春々大哉春と云々  
山里は万歳おそし梅の花  
門松やおもへば一夜三十年  
元日は田毎の日こそ恋しけれ  
天秤や京江戸かけて千代の春

2021年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

新たなる風北窓を開けしより  
ダンディーなシルバークレイ猫柳  
感涙は拭はぬままに卒業す  
風葬の森と伝えて百千鳥  
落日の翳りを重ね夕桜

八王子 石井 蓉子

空晴れて子らの笑顔やお正月  
通所する道そこここに霜柱  
砂遊びもうすぐ春が来るもんね  
春立つや通院通所欠かさずに  
春一日家事の一日となりにけり

町田 小森 まさひこ

禍の世に地虫の出でにけり  
逆さ富士映す湖みくさ生ふ  
羽根休め寝るのもありて春田かな  
ほおぼってうぐいす餅の粉にむせ  
ターミナル出で二十五分の梨の花

2021年5～6月掲載分

習志野 大慈弥 爽子  
夏めくや磨きあげたる食器棚  
筋書の無き夢重ね明易し  
短夜や決心未だつかぬまま  
六月や髪存分に切りつめて  
ぶつかって身をくづしたる火取虫

八王子 石井 蓉子  
桜散るあたしはいつも一人きり  
囀りの元気で歩めと鳴きにけり  
陽を返す白花水木の遊歩道  
桜咲く朝の公園一人きり  
桜咲く幸せいっぱい夢いっぱい

新宿区 壺守 圭子  
葉擦音渦巻く音や春疾風  
葦の角湖水の揺れに動かざる  
富士映す湖を縁取る桜かな  
踏みしめて草の芽息吹を足裏に  
山々に白藤揺れている甲斐路

町田 小森 まさひこ  
露天湯の屋根の代はりの青簾  
軽鳧の子の列の乱れる最後尾  
ニュータウンと呼ばれ街の緑なる  
万緑を財産として村まもる  
檸檬花この色にしてあの味に

2021年7～8月掲載分

習志野 大慈弥 爽子  
白玉や母の齢へあとわづか  
水中花生きる証の泡ひとつ  
気怠き香たて山梔子の花の錆  
怯む身に追ひ打ちかける残暑かな  
籠り居に馴染み残暑の街俯瞰

八王子 石井 蓉子  
澄渡る五月の空の夜明けかな  
母の日は母は元気なだけでいい  
洗い髪幸せきつと来るやうな  
夏椿の一輪散っている夕べ  
サイダーをぐくぐくぐくと飲みにけり

新宿区 壺守 圭子  
八の字でくぐる茅の輪の匂ほひけり  
青葡萄懇切丁寧袋掛  
犬の舌長々として夏来る  
夏至の日の朝を開く羽音かな  
夏至の旅長き日が終はりたる

町田 小森 まさひこ  
根釧の地平線まで牧薄暑  
海霧の間に北方領土らしき島  
海霧の夜の五里に届きし霧笛かな  
玫瑰の空透き通ってをりにけり  
万緑の縁取る湖にまりも生ふ

2021年9～10月掲載分

習志野 大慈弥 爽子  
ひねくれる辛さを艶に唐辛子  
手すさびの鬼灯三つ目も破れ  
冷ややかに次の検査の予定また  
昏れ残る光の蛇行川の秋  
燃え尽きてゆく華やぎに草紅葉

八王子 石井 蓉子  
風呂あがりアイスクリームのより旨し  
とぼとぼ帰る道々法師蟬  
幸せが来る予感して髪洗ふ  
午後六時秋の気配の確かなる  
百日草ほろほろと散りにけり

新宿区 壺守 圭子  
花火の香静もる闇の残りけり  
昨日今日温度差十度秋暑し  
熟れ桃を丸ごと食んで汚す肘  
お供えに育てし菊を切りにけり  
歳時記の重きも捲る長き夜

町田 小森 まさひこ  
連綿とホトギス山脈天高し  
その先は葛葛葛で行けません  
芋水車北アルプスの水引いて  
平原を渡る霧笛や二十キロ  
コスモスの色の境を歩きたし

2021年11～12月掲載分

習志野 大慈弥 爽子  
百本の縄かけ松の冬支度  
狛犬の口のほころ小六月  
風わたる時に光となる枯木  
ざぶざぶと洗ひ白菜ざくと切る  
目くばせに人の言葉のわかる鴨

八王子 石井 蓉子  
コスモスが黙って雨に濡れている  
一人居に虫の音だけの音のあり  
小雨降る秋の道行くランドセル  
通院の道を一緒に秋茜  
セーターを取り出している朝かな

新宿区 壺守 景子  
銀杏を踏まぬ抜き足小さき靴  
空堀に蔓ながながと烏瓜  
銀杏の畠となりし城址かな  
高々と天突く大樹天高し  
釣堀に動くものなし初氷

町田 小森 まさひこ  
旅先に神有月とある大ポスター  
手入れ良き杉の木立に初時雨  
時雨忌や坂を登れば翁像  
電線を動かぬものに冬の鳥  
江戸濠を照らす灯りに鴉(かいつぶり)